福島県の再造林推進を考えるシンポジウム開会あいさつ

福島県の再造林を考える会代表　佐川広興（協同組合ウエル造林理事長）

1. 先ほど司会から紹介ありましたように、福島県森林・林業・緑化協会をはじめ林業関係の５団体で福島県の再造林を考える会を作りましてこのシンポジウムを呼びかけたところ、このように多くの方の参加をいただきました。ありがとうございます。再造林を考える会の代表をしております、協同組合ウエル造林の佐川でございます。
2. さて、地球的規模で進む温暖化に対して、CO2を吸収する森林の若返りが必要でなっています。伐期に達した人工林を伐採して、木材を利用し、伐採跡地にきちんと植栽して手入れをして育てていく、森づくりの循環が必要になっているのです。
3. しかしながら、伐採して植林して育てるのに必要な経費が大きいため、伐採しても植林せず放置してしまう森林所有者が多いのが現状です。
4. このため、温暖化対策につながらないばかりか、国土保全上も大きな問題になっています。
5. このシンポジウムでは、大苗等による再造林について各地で実践している物林（株）の大貫さんに、「これからの林業を考える～林業の産業としての発展を目指して～」と題して、林業をどのようにして儲かる産業にしていくか、元気の出るお話が聞けることを期待しています。
6. また、林木育種センターの田村さんには、花粉も少なく、材の強度もあって、かつ成長の優れた苗木の開発の現状等について研究成果をお話しいただきます。
7. さらに関係者によるパネルディスカッションも行われます。

皆伐、再造林を推進するためには、伐採～植林～保育までどのようにしてトータルでコストを削減するか考える必要があります。

本日のシンポジウムでその端緒が見えてくればありがたいと考えています。

皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

本日はよろしくお願いします。